

8－2 技術・家庭（家庭分野）

（１）第１学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

1年生の学習状況について、以下の特徴が見られた。

- ・ この教科に対して興味・関心があるか尋ねたところ、全体の83%の生徒が肯定的な回答をしており、多くの生徒が家庭分野の授業や学習内容に対して意欲的である。

イ 学力の状況

- ・ 家庭での仕事を十分に体験できていない。
- ・ 日常生活において、衣服の補修や針と糸を使って小物を製作する機会や調理経験がない。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 家庭分野の授業や学習内容に対して意欲的であるが、生活経験が乏しい。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 製作活動や調理実習を多く取り入れることで、ものづくりの楽しさを体験させ、基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせる必要がある。
- ・ 実習を行う際には、安全面・衛生面を徹底する。
- ・ 話し合い活動や生徒同士の学び合いの機会を増やす。

③ 授業改善案

ア 活用を取り入れた授業への取組

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」となる授業展開を工夫する。
- ・ 衣服の選択や日常食の調理について学ぶことで家庭での実践を促す。
- ・ 生活に役立ち、短時間で製作が可能な小物の製作を題材にする。
- ・ 生徒一人一人の進度に応じて、作品に創意工夫ができるようにする。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 映像教材の活用し、授業の流れを提示することで、見通しを持たせて学習できるようにする。
- ・ 製作活動では、拡大した見本教材を示し、作業内容をわかりやすくする。
- ・ 体験的な学習活動を行う際には、タイマーを活用し時間の区切りを明確にする。

ウ 大型テレビなどICT機器を取り入れた授業への取組

- ・ プレゼンテーションソフトや映像教材を活用することで、学習内容への理解を深める。

エ 家庭学習の定着

- ・ 夏休みなど長期休業中に家庭での実践課題を出す。
- ・ 日常生活と関連づけ、時事問題を取り入れながら指導する。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

2年生の学習状況について、以下の特徴が見られた。

- ・ この教科に対して興味・関心があるか尋ねたところ、全体の92%の生徒が肯定的な回答をしており、多くの生徒が家庭分野の授業や学習内容に対して意欲的である。

イ 学力の状況

- ・ 家庭での仕事を十分に体験できていない。
- ・ 食品の調理に関心があるが、食品の選択の観点や保存方法に関する知識が少ない。
- ・ 日常生活において、衣服の補修やミシンを使って小物を製作する機会や調理経験がない。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 家庭分野の授業や学習内容に対して意欲的であるが、生活経験が乏しい。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 製作活動や調理実習を多く取り入れることで、ものづくりの楽しさを体験させ、基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせる必要がある。
- ・ 実習を行う際には、安全面・衛生面を徹底する。
- ・ 話し合い活動や生徒同士の学び合いの機会を増やす。

③ 授業改善案

ア 活用を取り入れた授業への取組

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」となる授業展開を工夫する。
- ・ 衣服の選択や日常食の調理について学ぶことで家庭での実践を促す。
- ・ 生活に役立ち、短時間で製作が可能な小物の製作を題材にする。
- ・ 生徒一人一人の進度に応じて、作品に創意工夫ができるようにする。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 映像教材の活用し、授業の流れを提示することで、見通しを持たせて学習できるようにする。
- ・ 製作活動では、拡大した見本教材を示し、作業内容をわかりやすくする。
- ・ 体験的な学習活動を行う際には、タイマーを活用し時間の区切りを明確にする。

ウ 大型テレビなどICT機器を取り入れた授業への取組

- ・ プレゼンテーションソフトや映像教材を活用することで、学習内容への理解を深める。

エ 家庭学習の定着

- ・ 夏休みなど長期休業中に家庭での実践課題を出す。
- ・ 日常生活と関連づけ、時事問題を取り入れながら指導する。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生の学習状況について、以下の特徴が見られた。

- ・ この教科に対して興味・関心があるか尋ねたところ、全体の83%の生徒が肯定的な回答をしており、多くの生徒が家庭分野の授業や学習内容に対して意欲的である。

イ 学力の状況

- ・ 家庭での仕事を十分に体験できていない。
- ・ 日常生活において、幼児と関わる機会が少ない。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 家庭分野の授業や学習内容に対して意欲的であるが、生活経験が乏しい。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 製作活動や調理実習を多く取り入れることで、ものづくりの楽しさを体験させ、基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせる必要がある。
- ・ 実習を行う際には、安全面・衛生面を徹底する。
- ・ 話し合い活動や生徒同士の学び合いの機会を増やす。

③ 授業改善案

ア 活用を取り入れた授業への取組

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」となる授業展開を工夫する。
- ・ 家族・家庭生活や幼児の成長について学ぶことで家庭での実践を促す。
- ・ 生活に役立ち、短時間で製作が可能な小物の製作を題材にする。
- ・ 生徒一人一人の進度に応じて、作品に創意工夫ができるようにする。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 映像教材の活用し、授業の流れを提示することで、見通しを持たせて学習できるようにする。
- ・ 製作活動では、拡大した見本教材を示し、作業内容をわかりやすくする。
- ・ 体験的な学習活動を行う際には、タイマーを活用し時間の区切りを明確にする。

ウ 大型テレビなどICT機器を取り入れた授業への取組

- ・ プレゼンテーションソフトや映像教材を活用することで、学習内容への理解を深める。

エ 家庭学習の定着

- ・ 時事問題を取り入れながら身近な幼児や幼児に関する社会問題について関心をもつように促す。